

1 総 括

(1) 教育目標（学校経営案より）

学習指導要領の基本理念をふまえ、児童のすぐれた個性を伸ばし、個を生かす教育活動を通して、知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな児童の育成を図る。

＜めざす児童像＞

- | | |
|--------|-----------------------|
| ○ 強 く | 自他の生命を大切にし、たくましく生き抜く子 |
| ○ 正 しく | 自ら学び、正しく判断できる子 |
| ○ 明 るく | 礼儀正しく、心豊かで思いやりの心をもった子 |

(2) 本年度の重点努力目標

- ア 基礎・基本の確実な定着をめざし、「わかる授業」「楽しい授業」を心がける。さらに、体験的な学習、問題解決的な学習を重視し、自ら課題を持ち、主体的に学ぶ力の育成に努める。また、道徳の授業を工夫し、考え、議論する授業を行う。
- イ 異年齢集団「なかま」活動により、思いやりの心や感謝の心を育てる。また、「読書の時間」の充実のために「読み聞かせ」を職員とボランティアで積極的に行う。
- ウ 外遊びを推奨し、体育的行事を計画的に実施するとともに、歯と口の健康に関する指導に取り組み、家庭の協力を得ながら正しい生活リズムづくりをはじめ基本的な生活習慣の育成に努める。
- エ 「あいさつ運動」をはじめ、諸行事を通して教師が児童に寄り添うなかで、児童理解を深め、心のつながりを大切にした学級・学校づくりに取り組む
- オ 定期的な安全点検以外にも、遊具の安全な使用方法や廊下歩行の安全指導など、安全な学校環境づくりに努める。対応マニュアルを常に見直し、避難訓練を行う。
- カ 学校評価や個人懇談の実施、ホームページの更新、学校通信の発行、外部講師の招聘・行事へのPTA協力等を通して、学校を地域に開き、家庭・地域との信頼関係づくりに努める。

2 自己評価の実施体制

- (1) 調査時期 平成29年12月
- (2) 調査項目 別紙アンケート参照
- (3) 調査対象 有効回答者数／対象者数
- | | | | |
|------|------------|------|---------------|
| ・児童 | 157名／全160名 | | |
| ・保護者 | 113名／全122名 | ・教職員 | 13名／13名 計283名 |

3 調査結果

別紙アンケート結果参照

4 考 察【児童・保護者・教職員の総括的考察】

- (1) 児童の評価の中では、11「なかま活動に楽しく参加している」が、どの学年とも肯定的な評価が一番高い。「なかま活動」は、保護者が子どもの頃から続いている「遊び」に特化した縦割り活動で、遊びを通して縦の円滑な人間関係を築く中で、思いやりや感謝の気持ちを育てることをねらいとしている。通学団でのトラブルが比較的少なく感じられることや、低学年児童が高学年から学ぶ行動が多々見られることもその成果といえる。クラス以外で濃密な人間関係を築ける場であり、6「学校は楽しい」の高評価につながっているとも考えられる。
- (2) 保護者評価の中では、2「学校の行事や授業参観には、できるだけ参加している」の肯定的評価が97%と高い。本校はこの3年間「歯と口の健康」に関する取り組みをしてきたが、児童の関心を高め、生涯にわたって「歯と口の健康に対するよい生活習慣」を身につけていくには、保護者の協力が不可欠であり、連携して取り組めたことはとてもよかった。また、8月の暑い時期に行った親子除草への参加率も昨年度に増して高く、このことから、保護者の学校に対する関心が高く、協力的であることがわかる。

- (3) 保護者評価で、昨年度と比べて肯定的な評価が増えたのは、3「子どもの学習や生活について、担任や他の教職員に相談できる」で11%増であった。児童のこの項目の評価は、昨年度と比べて、高学年においては肯定的な評価が増えているのに対して、低学年においては否定的な評価が増えている傾向が見られた。「自分の方を見てほしい」という傾向の児童が増える中、児童間で起きたトラブルが、保護者からの相談で分かることが多いことから、実情を反映しているといえる。学校で困ったことがあったとき、「すぐに先生に相談できる」という人間関係を築き、学校であったことは学校で解決できるようにしていきたい。

5 成果と課題

<成果>

- ・ 保護者評価11「わが子は大切にされ、認められている」の肯定的評価が、昨年度に比べ5%高くなっており、3「子どもの学習や生活について、担任や他の教職員に相談できる」の11%増と併せて考えると、学校と保護者の距離が縮まり、より連携して児童の育成に当たることができるような関係作りが進んでいるといえる。さらに、信頼関係を深めていけるよう努力していきたい。

<課題>

- (1) 児童評価7「友だちとなかよく生活している」の否定的評価が13%あり、昨年度と比較しても7%低くなっている。児童にとって「友だち」とは、クラスの子どもをさすことが多く、横の円滑なつながりを築けていない児童が多いことが分かる。特に低学年児童においては、言葉でうまく伝えられなかったり、乱暴な言葉に反応してしまったりする場面が多く見られるので、コミュニケーションの力を高めていく必要がある。また、どの児童にも居場所・活躍の場が与えられ、自己肯定感をもてるようにしていく必要がある。
- (2) 保護者評価で5「学年通信や各種たより、HP等で、学校の様子がおおむね分かる」の肯定的評価6%、1「本年度の学校重点目標（スローガン）を知っていた」の肯定的評価が5%低くなっている。HPは毎日更新されており、その閲覧数は、昨年度に比べ横ばいではあるが、他校に比べてとても多い。学年便りや学校便り・保健便り等の発行回数は昨年並みであるが、保護者の知りたい内容に合致していないことも考えられる。加えて、児童評価9「学校であったことを、家でよく話す」の肯定的評価が、13%低くなっていることも課題である。

6 改善策

(1) 生徒指導体勢の確立

①児童の様子を的確につかむために、個別相談を行う日を設定し、事前アンケートも実施する。②よい面・いけない面、児童のどちらの小さな変化も、家庭と連絡を取り合い、家庭との関係作りに努める。③報告・相談・必要に応じてチーム対応を行う体勢を確立する。④児童・保護者の声に耳を傾け寄り添うための研修を行う。に加えて、⑤児童の様子についての情報交換を金曜日の午後の打ち合わせの時間に行い、指導事項については文書でも回覧する。⑥必要に応じて、スクールカウンセラーや教育相談センターなどと相談連携する。

①～④継続した取り組みに加え、⑤⑥を行い、体勢を確立すると共に、教員間の意識統一を図る。

(2) 心の教育の充実

授業を中心に、様々な場面で「話す」「聞く」「話し合う」活動の場の設定を工夫し、「自分の思いを的確に伝え、相手の思いを共感的に受け止める」という伝え合う力の向上をめざす。また、学校生活全般、特に係活動や当番活動等において、教師から児童・児童相互のがんばりを認めることを大切にし、社会性を育み、自己有用感をもたせる。

(3) 基礎学力の向上

楽しい学校の基本は、「分かる授業」である。学習規範について全校同一歩調で指導を行い、どの学年も落ち着いて授業が進められるように努める。また、ユニバーサルデザインを取り入れた教室環境や授業の進め方、IC機器の活用などにより、どの子も分かる授業をめざす。また、教員の授業力向上のための研修も計画的に進める。